

社 会

(3) 社会

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 社会的な見方・考え方を働かせながら、学習の問題を追究・解決する学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど、言語活動に関わる学習のための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うための工夫 ・地図帳を活用することにより、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養う工夫 (4) 学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見出したりすることや、さらに学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることができるような工夫 (5) 博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるための工夫 (6) 単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場を設定し、児童の表現を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮
3 その他	・具体的な社会的事象の取り上げ方について

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
社 会	新しい社会	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- どの単元の学習においても、問題解決的な学習の過程（「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」）を大切にし、3年P18～19や5年上 P24～25にある「学習の進め方」では、見開きを使い、児童の思考に沿った学習の過程を例示し、見通しをもって学習を進めることができるよう工夫されている。

児童が自ら学習問題をつくり、見通しをもちながら、実社会で働く人々の姿に学ぶとともに、グループなどで話し合う活動が提示されている。また、適所に学習意欲を喚起させる意味で、キャラクター「ドラえもん」を目印に、「空間」「時間」「相互関連」「方法（考え方）」といった4種類の見方・考え方が提示されており、児童がより深く学ぶ際の視点や方法が示されている。まとめる場面では学習したことを振り返り、学習問題を解決する過程を視覚的に示す工夫がされている。〔例〕5年「米作りのさかんな地域」上P92～93 6年政治・国際編「子育て支援の願いを実現する政治」P44

- 多様な考えを出し合い、話し合う場面が重視され、適所に学習意欲を喚起する写真やイラストが示されている。

調べたことをもとに、特色やよさについて話し合う場面や、司会とパネラーを設定してミニパネルディスカッションをする場面など、既習の事実を生かし、多様な考えが出せるような活動が取り入れられている。〔例〕3年「地図を使って考えを伝え合う」P30 6年歴史編「天下統一を進めた二人の武将の働きについて、学習したことをもとに話し合う」P74～75

- 各巻の目次には、「Dマーク」が示され、社会科学習への興味・関心を高めることができるコンテンツが用意されている。インターネットを活用した学習を取り入れることで、必要な情報を収集したり、収集した情報を読み取る工夫がされている。また、ICT機器を活用した学習場面が設定されていて、インターネットを使った情報の収集や、メディアリテラシーを身につけることの必要性が示されている。〔例〕5年「情報を学習に生かすにはどうすればよいか」下 P94～95 5年「水産業がさかんな地域の人たちの工夫や努力について調べたことをまとめる」上 P108～109

- 学習成果を「まとめる」場面を小単元の終末に設け、多様な表現活動を取り入れたまとめ方が示されている。学習問題を確認し、自ら調べたり他の児童と考えたりしてきたことを新聞や4コマCMなどにまとめる活動が取り入れられている。〔例〕4年「特色ある地いきと人々のくらし」P149 5年「くらしを支える工業生産」下 P23

また、今日的な課題に関わる箇所を中心に、学習したことを生かして社会的な事柄に参画したり、提案・発信したりする「いかす」学習場面を例示し、社会と主体的に関わろうとする児童の育成をめざす工夫がされている。〔例〕4年「避難所シュミレーション」P94～95

- 「見る・聞く・ふれる」といった体験的な調査活動の大切さが随所に示されている。特に第3・4学年の学習では、地域を歩いて見学したり人と出会ったりする活動がイラストで示されるなど、実際の調査活動の場面を捉え、社会事象の意味について考えていくことの大切さが伝わるよう提示されている。第5・6学年の学習では、より広範囲かつ実生活とは離れた地域や社会的事象を扱うため、写真や表、グラフなどの資料を掲載し、多様な学習に対応できるように工夫されている。〔例〕3年「おかし工場の見学」P55 6年歴史

編「歴史学習の基本をおさえよう①」P3

- 自分の生活と比較し、より具体的に社会的事象について表現できるよう、単元の導入では、児童にとって生活に身近な様子等を取り上げ、自分の生活と重ねて捉えることができるよう工夫されている。〔例〕4年「わたしたちの生活と水」P34 5年「わたしたちの生活をとりまく工業製品」下 P2

第3～5学年の巻末に、学年の学習内容をさまざまな方法（考え方）で振り返る場面が設けられている。また、「こんな学びの進め方もあるよ」という場面も設けられ、主体的・対話的で深い学びを実現するための学習方法が提案されている。

- 社会科の特質に応じて道徳教育が適切に指導できるよう、自他の人格を尊重したり、公共の精神を育んだりする資料が示されている。また、人権教育との関連を意識し、地域で活躍する人に焦点を当て、その人の功績や生き方に学ぶことができる資料が提示されている。〔例〕3年「地いきの消防団の取り組み」P104～105 4年「地いきの医りょうにつくす」P134～135 6年「本当の平等を求めて」歴史編 P108

2 使用上の便宜

- 児童が主体的に学習できるよう内容が焦点化され、単元ごとに十分な学習活動を保障できる時数配当となっている。
- ワイド版（A B判）の判型を生かし、見開きを使ったイラストや写真が多数掲載されている。

第5学年は上と下、第6学年については歴史編と政治・国際編に分冊されていることで、持ち運びをする際の児童への身体的な負担に配慮している。

- 各学年の冒頭には、前学年で学んだことと当該学年で学ぶことの概要を把握できるページがあり、児童が見通しをもって学習できるよう工夫されている。

索引に工夫があり、例えば第6学年の歴史編の索引では、ことがらと人物が分けられていて児童が探しやすいようになっている。

- 目次に掲載された二次元コードを読み取ったり、URLを入力したりすることで学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができるようになっている。

本文と資料をはっきりと区別できるようレイアウトされている。また、児童の発達段階に配慮した大きさの文字が使用されている。

写真や図表などの資料には、見開き単位で番号がつけられ、どこに注目すればよいのかを簡潔に指示できるよう工夫されている。

カラーバリアフリーに配慮した配色がされており、図表などは、色調の違いだけではなく、模様や形などでも判別できるよう工夫されている。

3 その他

- 公共施設の整備と租税の役割、市役所の働きや防災に対する取組、政治のしくみと選挙の意義等、政治・行政に関連した教材が多く取り上げられている。
- 火事、地震、その他の自然災害と、国や地域の防災の取組を具体的に学習できるよう防災教育に関連した教材が各学年に掲載されている。
- 「領土」に関わる内容では「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本固有の領土であると明記されている。また、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」についての現在の状況についてもそれぞれに説明されている。また、「拉致問題」については北朝鮮より帰国した拉致被害者の写真とともに簡略な説明がされている。5年「世界の中の国土」上P14 6年「まわりの国と日本」歴史編 P153

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
社 会	小学社会	17 教出

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- どの学年の教科書にも巻頭で「前の学年をふり返ろう」のページが設けられており、前学年で学習した社会科（第3学年では生活科）の単元が取り上げられ、どのように学習し、何ができるようになったかが示されている。そのことによって、前学年の学習でめざしてきたことや身についた力を実感するだけでなく、それを土台に、児童が学習の目標や指針をもつことができるよう工夫されている。

「〇〇さんのお話」というインタビュー記事が多く掲載されており、行政や地域など多様な観点から取り上げることで、話し合い活動等を通して多角的・多面的な視点が育つよう工夫されている。〔例〕3年「工場ではたらく人と仕事」P64～77 4年「地震にそなえるまちづくり」P84～99

2つの資料やグラフを並立表示して対比させながら特徴を見つけ出せるよう工夫されている。また、資料の読み取りに関わって、児童の思考の深まりが促されるなど工夫されている。〔例〕5年「日本の工業生産と貿易・運輸」P144～145

- 各学年の巻頭ページで、「社会科の見方や考え方」のページがあり、社会科の学習で課題解決に向けて構想する際の視点や方法（「時期や変化」「場所や広がり」「比べる」「くふうや関わり」「関連づける」「総合する」）について学年の発達段階に応じた記述で示されている。また、次のページには「社会科の学習の進め方」として「つかむ」「調べる」「まとめる」という3つの場面をくり返しながら学習を進めていくことを示し、問題解決的な学習について、見通しをもって進められるよう工夫されている。その後、児童自身が、その後の学習や暮らしにつなげていくことを促す構成となっている。〔例〕各学年巻頭ページ
- 産業学習において、異なる観点で描かれた地図を対比させながら、農業、工業、土地利用等の特色が視覚的にも理解しやすいよう工夫されている。〔例〕4年「県の地図を広げて」P14～23

関連図書、国語辞典、百科事典、地図帳、インターネット、聞き取りインタビュー等、様々なツールによる情報収集の方法や、効果的なまとめ方等が掲載されており、児童が主体的に調べ学習を進めていく際の手引きとなるよう工夫されている。また、ネットモラルについてもふれられている。〔例〕3年「社会科ガイド」P160～163

- 単元ごとに「まとめる」と題して児童が書き込む等の形式で学習成果を振り返るページがあり、単元でポイントとなる事項や視点を再確認できるよう工夫されている。〔例〕3年「じよほうをまとめる」P170～171

各学年「解説」や「キーワード」の記載があり、学習用語の確実な理解を図るよう配慮されている。

各単元の終末に「ひろげる」と題して、別学年で学習した内容に関連するものや時事問題など発展的なトピックを取り扱ったページが設けられており、今の自分のくらしや社会の様子とのつながりを考えることができるよう工夫されている。〔例〕6年P163

- 歴史学習に必要な具体的資料を得るために効果的な遺跡や考古学博物館の見学に関わるページが設けられ、「事前学習の内容」「現地での見学の視点」「調べ方」といった学びの手引きが示されている。〔例〕6年「歴史の学び方をナビゲーション！」P68～69
- 単元の学習を振り返り、自分が最も大切だと考えるキーワードをもとに標語を作って発表し合うといった、児童の学習意欲の向上や表現力の向上につながる活動例が示されている。

る。〔例〕 3年「火事からまちを守るはたらき」P109

学習内容に応じた写真が多く用いられている。特に児童の調査活動の場面が取り上げられ、どのような視点で、何に留意して事象を見ればよいのか、学習を進める上での工夫がされている。〔例〕 3年「火事からまちを守る」P104～107

- 5年「自然条件と人々の暮らし」の単元で「自然とともに生きる人々の暮らし～アイヌの人たち」(P56～57)が取り上げられ、住居や文化について体験的に学ぶ活動例が示されている。

単元の内容に深い関わりがある人物から聞き取った「〇〇さんの話」等では、その内容に、勤労の尊さや社会的責任の自覚にふれるものが多く、道徳科との関連が図られている。〔例〕 5年「米づくりのさかんな地域」P78

2 使用上の便宜

- 学習指導要領の内容に示されている各学年の目標を達成できるよう、適切な事例や事象が取り上げられている。また、調査や表現のための活動も確保しながら、単元を通して充実した学習を進めることができるよう、記述内容が適切に配分されている。

- 各学年1冊構成とすることで、児童や学校、地域の実態に応じた1年間を見通したカリキュラム・マネジメントによる柔軟な対応を可能としている。

年間の使用に耐えうる製本で、装丁にも汚れにくい加工が施されている。また、環境への配慮から再生紙・植物油インクが使用されている。

- 索引の語句には、学習での主な事柄が選ばれている。また教科書に出てきたキーワードについては太字で表すなど索引の語句が2段階で示され、調べやすい工夫がされている。

目次に掲載された二次元コードを読み取ったり、URLを入力したりすることで学習に役立つ情報をWEBサイトで見ることができるようになっている。

- 本文では、児童の読みやすさに配慮したユニバーサルデザインの字体が使用されている。色覚の個人差を問わない配色がされており、資料によっては色だけでなく形からも区別ができるよう配慮されている。

資料の題名にカタカナの記号をつけることで、どの資料に注目すればよいのかを簡潔に指示できるよう工夫されている。

第3～4学年では毎時の学習活動が3段階で簡潔に提示されており、見通しをもって学習に臨めるよう工夫されている。

3 その他

- 戦時下のくらしや戦争のもたらした惨禍について具体的に捉える学習活動が重視され、平和の尊さや平和で平等な社会を希求する人々の願いについて実感できる教材が取り上げられている。

- 防災教育に関連して、第3学年では火事、第5学年では地震を取り上げている。また第4学年では地震、水害、火山、雪の災害から、6学年では地震、雪の災害から選択で取り上げるように示されており、国や地域の防災の取組を具体的に学習できるような教材を各学年で掲載している。

- 「領土」に関わる内容では「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本の領土であると明記されている。また、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」についての現在の状況についてもそれぞれに説明されている。「拉致問題」については日本と北朝鮮との関係の説明の中で一文説明がされている。5年「日本の国土とわたしたちの暮らし」P14～16 6年「これからの日本とわたしたち」P226～227

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
社 会	小学社会	1 1 6 日 文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 社会的な見方・考え方の三つの視点（空間、時間、相互関係）と方法を具体的に示す「見方・考え方コーナー」を設けるとともに、児童の素朴な問いや問題を話し合うところから学習をスタートさせ、学習問題を考え、調べ、追究し、学習問題について話し合い、表現する問題解決的な学習過程を基本に構成されている。〔例〕 3年P124～125、5年P70～71
 また、主体的な学びへ向かう手だてとして、疑問や予想を話し合い、学習問題をつくり、解決への見通しをもつことができる問題解決的な学習が推進されている。さらに対話的な学びでの話し合い・交流活動の充実や、深い学びでの多角的な思考と選択・判断する力の育成を図るため、児童の考えが深まっていく様子がイラストなどで示され、児童一人一人の振り返りのページが充実している。〔例〕 5年P84～85
- 見学や観察、調べたことを書くこと、話し合うことなど、国語科の内容に示された「話すこと・聞くこと」「書くこと」に示された段階をふまえた活動をふまえて、表現活動が例示されている。また、随所に「学び方・調べ方コーナー」、「やってみようコーナー」、「キーワード」、「むずかしい言葉」が設けられ、言語活動を充実させる手だてが工夫されている。
 また、単元の終末などでは、対話的な学びを示唆する児童の話し合いや振り返りの学習が充実している。〔例〕 3年P116～121、5年P126～129
- 全学年、「学び方・調べ方コーナー」で地図、カード、年表などのつくり方や聞き取りの仕方、資料の集め方やインターネットの使い方、調べたことや考えたことの発信の仕方などが取り上げられ、情報活用能力の育成が図られている。また、プログラミング的思考を育成できるように、学習問題をつくるまでの過程が示され、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。〔例〕 4年P82、5年P188～189、6年P72～73
 I C T機器の活用については、デジタルマークを設け、電子黒板やタブレット端末を活用しながら学習が進められるようWEBページにコンテンツが用意されている。
- 「学び方・調べ方コーナー」や「やってみようコーナー」により、課題や場面に応じて学習の見通しを立てられるよう工夫されている。話し合い、意見を出し合うことで考えが深まっていく様子が具体的な発言例を挙げて示されている。〔例〕 5年P89、P157、6年P227
 また、児童のノート为例示し、「自分の考え」、「友だちの意見とつなげて考えたこと」、「新たな疑問」などの内容が可視化されており、考え方やノートの書き方の見本や、評価の基準としても活用できるようになっている。〔例〕 5年P103
- 地図帳や地球儀の具体的な活用方法を示し、興味・関心をもって調べられるよう配慮されている。〔例〕 3年「地図帳の使い方」P156～157、4年「地図となかよしになろう」P194～195、5年「世界から見た日本」P8～17
 また、役場等身近な地域の施設や、各地に残されているさまざまな遺跡や文化財、博物館などを直接訪ねて観察・見学したり、調査したりする活動が紹介されている。〔例〕 3年「わたしたちの住んでいるところ」P8～39、4年「くらしのなかに伝わる願い」P104～125
- 児童の立場からの発言や話し合い、児童のもっている力を発揮した調べ学習や表現活動、

学習内容の整理の仕方、多角的な思考や選択・判断の内容などが示されている。その際、人々との出会いやメディアの活用など、作業的・体験的な活動が、児童の発達段階を踏まえて位置づけられている。例えば、第6学年では児童の興味・関心を重視し、取り上げる人物や文化遺産、社会的事象が精選して示されている。〔例〕3年P86～87、4年P116～123、5年P258～259、6年P54～56、P72～73、P120～121、P128

- 道徳科との関連では、あいさつや電話の仕方、交通ルールを守ることなどが礼儀や規則の尊重などと関連して示されている。また、国際理解や多文化共生の基礎を養う事例が示され、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する心情を涵養できるよう工夫されている。〔例〕3年「学び方・調べ方コーナー」、4年「世界とつながる地いき」、5年「日本の国土と人々の暮らし」、6年「世界のなかの日本とわたしたち」、6年「日本のあゆみ」

第3学年の社会科では、生活科で培われた体験活動を通じた気づきをもとに社会的認識を広げ、深めていく工夫が示されている。また、人権・福祉に関する内容を扱い、共生社会の実現に向けて考えられるように配慮されている。〔例〕4年P184～185、6年P17、P28、P250

2 使用上の便宜

- 小單元ごとの十分な調べ活動や話し合い活動などによって、児童の主体的・対話的な学習が展開できるよう内容の焦点化が図られている。
- 各学年とも1冊構成とすることで、1年間の見通しをもったカリキュラム・マネジメントによる柔軟な対応を可能としている。

本文用紙は軽い再生紙が採用され、児童への重量的負担の軽減に配慮されている。製本は丈夫で、本が大きく開きやすい。

- 第6学年の索引では、事柄と人名、おもな地名、国名に分けられていたり、第3～5学年の索引では国内の地名は地図上に示されたりするなど、探しやすい工夫がなされている。

その単元を学ぶ上で必要な学習用語を「キーワード」として、また、難しい言葉に辞書マークを使い、本文の横にわかりやすく説明されている。

- 本文を学習活動、友だちの発言、学習内容の3つに分けることにより、文章を正確に読み取れるよう工夫されている。

カラーユニバーサルデザインに対応した図表を用いて配色がされており、資料によっては色だけでなく斜線やドットを使用するなど、配慮されている。

資料の題名に見開き単位で番号をつけることで、どの資料に注目すればよいのかを簡潔に指示できるよう工夫されている。

3 その他

- 自然環境や生活環境の保全や、限られた資源の管理など、社会の持続可能な発展について考える教材が多く取り上げられている。
- 日本の国土の特徴と関連させながら、台風、水害、地震などの自然災害と、国や地域の防災の取組を具体的に学習できるよう、防災教育に関連した教材が各学年に掲載されている。
- 「領土」に関わる内容では「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本固有の領土であると明記されている。また、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」についての現在の状況についてもそれぞれに説明されている。5年「日本の国土と人々の暮らし」P16～17 6年「国際社会のなかの日本」P225